

# 中国の吉祥文様リデザイン----- 若者向けのパッケージデザイン

## 目次

### はじめに

## 第一章 吉祥文様の概要

### 1.1 吉祥文様の概念

### 1.2 吉祥文様の特徴

- 1 吉祥文様の民族性
- 2 吉祥文様のシンボル
- 3 吉祥文様の伝承性

### 1.3 吉祥文様の発展

- 1 未開社会の文様
- 2 商周時代の文様
- 3 戦国と秦漢時代の文様
- 4 魏晋南北朝時代の文様
- 5 隋唐五代の文様
- 6 宋辽金元の文様
- 7 明清文様

### 1.4 吉祥文様の分類

- 1 吉祥紋様の内容吉 — 魔よけ類
  - (1) 財 — 金銭を招く類
  - (2) 福 — 福を祈る類
  - (3) 禄 — 立身出世類
  - (4) 寿 — 長いき類
  - (5) 喜 — 人情婚姻類
- 2 吉祥紋様の媒体

## 第二章 吉祥文様の構成と表現形式

### 2.1 吉祥文様の構成

### 2.2 吉祥文様の表現手法

- 1 象徴法

- 2 寓意法
- 3 語呂合わせ
- 4 表号法
- 5 文字

### **第三章 伝統的な吉祥文様と現代のパッケージデザイン**

- 3.1 吉祥文様と商品デザイン
- 3.2 吉祥文様の色彩
  - 1 中国の伝統色彩の表現特徴
  - 2 吉祥色彩の運用
- 3.3 吉祥文様のパッケージデザインの運用実例
- 3.4 吉祥文様の使い方
  - 1 吉祥文様を運用する意味
  - 2 若者向けの吉祥文様の使い方

### **第四章 吉祥文様のリデザインとパッケージデザインの制作**

- 4.1 チョコレートのパッケージデザイン
- 4.2 吉祥文様の決定とリデザイン
- 4.3 完成したデザイン

**おわりに**

**参考文献**

**参考 HP**

**謝辞**

## はじめに

### (1) 研究概要

中国の文化遺産である吉祥文様は長い歴史を持ち、美しい文化様式と風俗習慣を表すものでもある。商品デザインにおいても吉祥文様の使用は、歴史や伝統文化を現代に融合させ、人々の幸福や願いを美しいデザインで表現してきた。現代の中国では経済の発展と生活水準の向上に伴い商品デザインの種類と質が高まり、人々のデザインに対する欲求や美意識も変化してきた。しかし、吉祥文様を使用したパッケージデザインは主に伝統品や高級品であり、過度な包装とデザインが施され、文様もそのまま直接的に使用される場合が多い。そのため 10 代から 20 代前半の若者があまり購入する商品デザインになっていない。現代の若者は伝統的な文様に古臭い印象を持つため、パッケージのデザインにおいても変化と工夫が必要なのである。本研究では若者が手頃な値段で購入しやすいシンプルな材料を使用し、包装コストを削減するデザインを追求した。また、若い人たちの注目を集めるために現代的な色彩を使用し、吉祥文様をリデザインしたチョコレートお菓子のパッケージデザインを制作した。吉祥文様は時代に合わせてリデザインすることで伝統と歴史文化を若い世代へ継承し、その先の未来へ発展させることができるのである。

### (2) 先行研究

書籍：《中国纹样史》、《纹样辞典》の二冊には、中国の模様の発展や歴史を詳述している。しかし現代のデザインに模様を使用する現状を述べていない。

論文：《中国传统纹样对现代设计的影响》2011 李娜 この論文に、広告デザインで伝統的な文様の発展と実用化を分析したが、ターゲット集団が定義されていない。

武丽芳《中国传统纹样在潮牌服饰设计上的运用》と聂亚丽《中国传统纹样在现代中式室内设计中的传承与发展》この二つの論文は、ファッションデザインとインテリアデザインの分野で伝統的な文様の使用現状を紹介した。

本研究者が研究したいのは、縁起の良い意味を持った吉祥文様をパッケージデザインで運用すること、そしてターゲットは 10 代から 20 代前半の若者とした。以上の先行研究から見ると、研究者の研究視点はそれぞれであり、文様についてパッケージデザインでの使用現状の研究に至っていない。また、吉祥文様の運用についての系統的な研究理論がないと言える。

## 第一章 吉祥文様の概要

### 1.1 吉祥文様の概念

吉祥文様は人類が創造した最も古い芸術の一つで、文字や絵画よりも歴史が長い。往古のトーテムが存在する時代から、模様はインフォメーションキャリアー(情報担体)として出現した。中石器時代から、様々な模様が存在してきた。出土した多数の文物や生活用品の中から古代の人類は生存の為に生活用品をつくり、簡単な飾りを加えて、機能的な需要と美的な需要を創作してきた。何千年の歴史の中で、時代の変遷や社会の発展、工芸技術の進歩にしたがって、次々と出てきた陶芸、青銅器、漆器、建築などの装飾文様は生活の様々なところに存在し、時代の特色を表している。吉祥文様は先祖たちが良い生活に憧れて、生活を観察した結果である。人の感情、価値観、生活の様子を表わした。「吉祥」とは幸運の前兆である。「吉祥」二文字をあわせて使用したのは「庄子・人間事」からと言われている。「虚室生白，吉祥止止」。唐の詩人である成玄英疏はこれについて解釈した。“吉者，福善之事；祥者，嘉庆之征”。吉祥文様の誕生は美しい物語と幸運の前兆を絵にして、幸運を追求し、凶を払った寓意を持っている。それは自分自身に祈ること、あるいはお互いに祝福することである。

伝統の吉祥文様の題材は大体民間の諺語や神話を主に、人物、花鳥、文字、動物、風水、月日などをモチーフする。「物に意味を与える」と「景色に意味を与える」と「語呂合わせ」と「吉祥な文字を直接に引用する」は代表的な手法である。吉祥文様は吉を求める理念と強い幸福を祈願する願いだけではなく、芸術的に数多くの内容を保持しており、人々の生活から離れることのない文化なのである。

## 1.2 吉祥文様の特徴

### 1.2.1 吉祥文様の民族性

中国は多民族の国である。それぞれの民族で違う文化を持っている。地域ごとに伝統や歴史では自分の独自の芸術の形式が存在する。中国の歴史は長いため、地域ごとに文様の発展の歴史も長く、様々な民族行事から生まれた吉祥文様も地域の象徴となっている。

### 1.2.2 吉祥文様のシンボル

吉祥文様は符号としての意味が存在している。シンボルは人類が発明されて直接に情報を伝える媒介である。芸術シンボル学の哲学者 S.K ランガーは「芸術でつかわれたシンボルは直接の意象である。感情と命と個性を溢れている意象である。」と述べた。吉祥文様はそのようなシンボリックな意味を象徴している存在なのである。

### 1.2.3 吉祥文様の伝承性

吉祥文様はずっと変化して伝承し続けている。固有な考え方や審美は存在しているが、伝承の過程の中で変化している。吉祥文様は生活者の知恵で民間の芸術から生まれた。時代の変遷により、民間の審美習慣から取捨選択され、吉祥文様に新たなものが創造された。長い歴史のなか、労働者の生活に伴って発展し、良い願いを人々にあたえた。

### 1.3 伝統な吉祥文様の発展

文明の発展に伴い、吉祥文様も変化している。時代や地域、人の審美や観念によって、吉祥文様は時代の特徴を現している。

#### 1.3.1 原始社会の文様

原始社会の人々は生存や繁衍が厳しい生活の中、未知の世界に幻想を抱いた。より良い生活を願い、原始社会の人々は簡単な吉祥の意味を表した装飾をしていた。それは吉祥文様の始まりであった。

原始社会では彩陶において主に装飾文様を使用した。よくあるのは魚紋、葉紋、鳥紋、水波紋、鹿紋、踊る人紋など。この時期で文様の形式は規則的な特徴を現した。これらの文様では吉祥テーマが多く使用され、生活の豊かさや、子孫の繁栄などの願いが多い。

中国の西安市の西安半坡遺跡から出でた魚紋彩陶盆（図 1-1）の文様は、簡単な線で描かれた魚紋と人面紋の組み合わせである。舞蹈紋盆（図 1-2）器の内側に描かれた手を繋いで踊っている人は髪の方角も頭の動きにより同じ方向に向いている。盛大な祭りを開いているような文様である。原始社会の彩陶にある吉祥文様は生き生きした内容であり作る人の喜びを模様表現していた。簡単な線の組み合わせと鮮やかな色使いから見ると原始社会の人はオリジナリティにも富んでいた。この時期は龍紋も使用された。一番有名なのは、内モンゴルから出土した玉龍である。この龍紋は全長 26cm、体は C の字に曲げられた。対称する鼻の穴があり、龍紋は豚の形から生まれたという説がある。

未開時代の彩陶と玉器の文様は、中国の先史時代の工芸文化の初めての高潮であった。種類が多く、その後の文様の基礎を定めた。原始社会文様の特徴の一つはのトーテミズムである。部落は自分のトーテムがあり、植物や動物などを崇めていた。特徴の 2 つは宗教の観念である。特定の形を神化して、威力を与えた。特徴の 3 つ目は抽象的造形である。写実の文様をどんどん簡単化して抽象的になった。魚紋は三角になり、鳥紋は頭と目に簡易化された。



図 1-1 魚紋彩陶盆

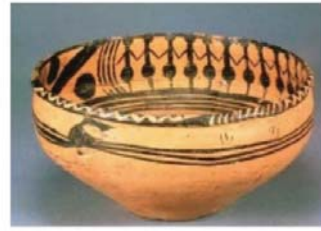


図 1-2 舞蹈紋盆

### 1.3.2 商周時代の文様

商代から西周早期に至って、青銅器の模様は饕餮紋（図 1-3）がよく見られた。饕餮紋は主権者の権威を表す文様である。饕餮紋は古人が様々な猛獣の特徴を融合して想像した神獣である。よく食器の模様として使われ、連続の雷紋の中に点景して、厳しく神秘的な威厳を感じさせている。民衆を統治して、社会を守る統治者の力を表現した。

西周中後期になると、大量な龍紋（図 1-4）が現れ、青銅器の模様を豊富にした。そこから、龍のイメージは中国人にとって大事なシンボルとなった。商代後期に鳳紋が現れた。鳥より美しい、頭には長い冠があり背中まで伸びている。羽は花のようになっている。鳳は想像の動物で、吉祥な意味を持つ神獣である。



図 1-3 饕餮紋



図 1-4 龍紋

この時期の吉祥紋は魚紋、亀紋、禪紋など。商周時代の幾何紋の雲雷紋、雷紋、乳釘紋、環帯紋、窃取紋などは段々現在の吉祥文様に発展してきた。雷紋（図 1-5）は現在の回紋（図 1-6）になった。夏商の文様は天と地の関係を表現している。動物を媒体として、人の願いは天まで届くことを意味している。想像上の動物が多く、正面を向いた文様が多い。心理的には正面の文様は威厳を感じさせ、威圧的な表現となっている。祭祀の時使われた青銅器の獣面紋も全部正面を向いた姿である。そして主紋と地紋もこの時期の特徴となっている。雷紋は獣面紋を引き立てることが一般的である。



図 1-5 雷紋



図 1-6 回紋

西周の文様は商代のように華麗ではなくシンプルである。西周は商と違い、天への崇拝から人へ崇拝に変わった。人即ち主権者である。文様も階層が厳しく分けられ、その特徴は統一されて秩序がある造形となっている。

### 1.3.3 戦国と秦漢時代の文様

封建社会に入り、工芸品に新たな発展があった。模様は生活のあらゆる方面に入ってきた。春秋戦国時代の工芸品には漆器、青銅器、玉器や織物などがある。青銅器の模様は簡単で荒い工芸から成熟な工芸になり、厳しいイメージから活気に満ちたものとなり、神秘的から生活的となった。この時代の文様の特徴は、現実生活を肯定して伝統な宗教の束縛から切り離された、固定観念、感情、想像力の解放である。前代の龍や鳳などの神獣以外に青龍、白虎、朱雀、玄武（図 1-7）などが現れた。青銅器の文様には写実的な題材が多くなり、例えば獬、採桑、宴などがある。構図や造形にも生き生きとした形が出てきた。例えば、弧線形、斜線形など。春秋時代の工芸は、商代の祭と周代の礼を辿り、現実生活に戻った。模様の題材が多く、伝統な獣紋から現実生活の歌舞や漁獵へと変わっていた。同時に抽象的な幾何紋が発達した。この時期に各国の特徴が現れた。秦国は現実主義で動物や植物の模様は写実的に描かれてた。楚国はロマンチックで、飛鳳紋や三角紋が多い。斎国は教育が発達し、規格紋や樹紋が多い。燕国は比較的後れるので、獣面紋まだこの時期に多く使用していた。中山国は北に位置し、少数民族の金銀獣などがあり民族の特徴がある。韓国は交通が便利で経済と文化が栄えていたので、様々な観念を受け入れた。そして蓮鶴銅壺という文様が現れた。南方の蓮から北方の飛鳥まで1つの文様にした。春秋戦国時代は百家争鳴の現象で、文様も生き生きしている。様々なものを受け入れ、後の統一した秦漢の繁栄に基礎を築いた。

秦国は中国を統一したが、統治した時間が短かったので、先代の文化を継承しただけとなった。漢代は四百年間において繁栄した。社会と観念の違いにより、西漢と東漢に分か

れた。西漢は西洋との交流が多く見られた、この時期の文様は簡潔で幸せな生活を願う吉祥文様が多い。東漢は内政が混乱していた。神仙や迷信などの文様が多くなり、文様は宗教的になった。

皇帝が不老不死の思想を推称されて、題材がお主に瑞祥な神のイメージで、「長生未央」「永春無疆」「千秋長安」(図 1-8) などの文様は織物や青銅器に使われた。



図 1-7 青龍、白虎、朱雀、玄武

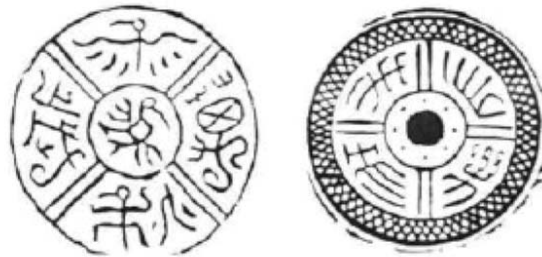


図 1-8 「千秋長安」「長生未央」

#### 1.3.4 魏晉南北朝時代の文様

魏晉南北朝時代では戦争が多かったため、人々は生活の安定を求めて神を頼り。支配階級からの提唱もあり、仏教、道教、玄学に関する内容の文様が流行にした。長い戦争において、宗教が繁栄することになった。東漢の後期、道教が生まれた。仏教が繁栄して各所に寺が一万三千軒を建てられた。

この時期の龍紋は漢代から伝承して、あまり変化がない。鳳紋には仏教の影響で蓮花に立つ紋様もあった。この時期は蓮花紋(図 1-9)、禽獣紋、流雲紋(図 1-10) が多い。調達のタッチや鮮やかな色合いが特徴である。



図 1-9 蓮花紋

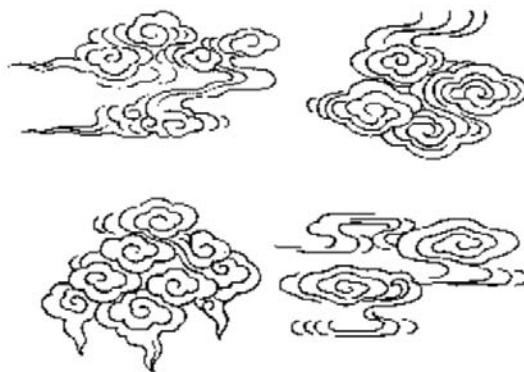


図 1-10 流雲紋

#### 1.3.5 隋唐五代の文様

隋唐、五代の時期の文様は内容と形式新たな発展があった。スタイルは華麗で色とりどりであり。文様の媒体は主に壁絵と絹織物と金銀器であった。吉祥文様は花草、鳥獣が主となり、瑞祥な神獣と神仙人物などもある。文様から見て生活感が溢れて非常に陽気な感じである。吉祥文様は魚子紋、連珠紋、獅子紋、牡丹紋、蝶恋花紋、鳳紋がある。唐代は経済や文化が繁していて、工芸美術も発展していた。唐の絹織物に刺してあった纏枝花鳳紋、連珠団花紋、牡丹紋、蝶恋花紋、団鳳紋、そして吐鲁番阿斯纳塔の文物「刺繡荷包」にある文様の吉祥如意纏枝紋は、唐の時代の典型的な吉祥文様である。その以外、特に有名な「陵阳公样」（図 1-11）の「对雉」「斗羊」「翔鳳」「游麟」などがある。唐の時代の銅鏡の吉祥紋様もある。内容は花鳥がお主に左右対称の構図でバランスが取れている。そして、細部まで繊細な描写されて生き生きしている「纏枝」では、鳥と蝶々それぞれが対になっている、円満の意味を持つ連珠団花紋などは、唐代における吉祥文様の基本なスタイルである。その中に綬鳥には長寿を寿ぐ意味がある。纏枝は生命力が長く続く意味であり、蝶恋花紋は恋愛関係の意味も持つ。唐の時代の文様の特徴は感情的と言える。経済の発展や思想の解放で豊富な文様が生まれた。その特徴は次のとおりである。(1)生活の情趣。唐の時代の文様は鳥、花、蝶々などが多く、恋愛感情の題材も多い。(2)題材の多様化。唐の文様は題材が広く、伝統な龍鳳紋から外国の海獣までに及ぶ、自然な風物から中南アジアの馬球、神話の嫦娥奔月の話から仏教人物の真子飛霜など、活力が溢れる時期と言える。(3)外来の芸術の融合。唐の時代は外国と頻繁に交流が行われた。文様には外来の文様と融合したものもある。(4)華麗なる風格。唐の文様は流線を多用して、色合いも色とりどりである。



図 1-11 陵阳公样

#### 1.3.6 宋辽金元の文様

宋辽金元の時期の花鳥のテーマの紋様はシンプルで、典麗な感じで流暢なラインが特

徴である。宋の時代儒家思想に影響されていて、造形を大事したため、装飾はその次に押しやられた。陶芸や漆器の多くは、形で特徴を表していた。文様で装飾したものでは彫刻や印刷などのやり方があった。釉薬の下で、含蓄の美を感じさせるなど。捺染した服においても規則のある幾何学の文様が多い。陶芸は青磁の美を追求していて、捺染も冷色が多い。宋の時代の工芸美術は理性的で静かな内向的な美であると言える。

宋の時代の牡丹（図 1-12）の造形はシンプルであり、簡単な線で牡丹の美を表した。元の時期の紋様は大体宋のスタイルを引き受け、金銀貨、陶器、玉器、織物が媒体として種類も多い。人々の生活向上の願望を込めるこれらの文様は、数多くの衣服や家具に施された。宋の時代の龍紋は以前とは比べて大きな変化があった。漢代や唐代の走獣形では体が太く足が走獣の形から漢以前の蛇の形に戻った。龍紋は単独として使用することが多いが雲水紋と合わせて使う場面も多い。宋の時代の鳳紋は漢代や唐代の立脚した形と違い飛翔する形となった。鳳は羽を広げて、羽の文様は羽紋や卷草紋が多く、唐代の華麗な模様とは違った。

その後、モンゴル族は軍事が発達していて、西夏、金、南宋を倒し、中国を再び統一した。元朝初期の頃は経済と文化をあまり重視しなかったが、外国との頻繁な交流で捺染の工芸は発展した。麻の服から綿の服に変わり、陶芸は彩絵の時代が始まった。元人は白色を好み、白い服を着ることは吉祥を意味した。文様は元曲の流行があり、装飾性の外に、物語も追求していた。例えば、八大码や如意云などがある。松、竹、梅の文様もこの時代からよくある装飾文様となっていた。



図 1-12 牡丹

### 1.3.7 明清文様

明清の時代の紋様のスタイルはもっと豊富である。吉祥紋様はこの時期になると成熟期を迎えた。元代は武力で国を統治し文化を粗略した。明の時代となって、農業が発展し人々の生活が豊かになった。工芸にも多くの発展があった。青花磁や五彩はその時期に出現した。特に明代の家具は伝統な木工芸において典範となった。文様も伝統の図案より規格化された。明代の龍紋のイメージも固定され、牛頭、鹿角、エビの目、鷹の爪、魚の鱗、

蛇の尻尾は一般的となった。明代の龍紋は口が長く締めている。龍の正面の紋も出現した。また座っている姿勢や回転する描写では威厳を感じさせている。鳳は宋の時代と同じく飛んでいる形の文様が多い。鳳の文様は女性の服やアクセサリなどに使われた。明代の工芸思想の影響で文様の特徴は淳朴で明るく、装飾性も強い。

清の時代の手工業は明代より発展し、陶磁や漆器から木彫まで大きな進歩があった。吉祥文様は清の時代は極大な発展があった。装飾文様の中で一番流行っているものは福、禄、喜などであり、これらの文様はどこでも見られる。明代の文様は単独で一個のテーマを表現することが多いが、清時代での吉祥文様は組み合わせの造形が多い。吉祥文様の内容も豊富となった。

清時代の龍紋は吉祥な意味が強くなった。龍の体が細くなり、頭が大きく。身体を屈めて、口開けている。玉を加え、顎は前に出る。足の爪は3つ、4つ、5つがあり、5つの爪は皇帝の使用のみ許された。龍には九人の息子があるという伝説があるため、九龍紋も生まれた。鳳紋はこの時期で牡丹と合わせて使うことが多い。この時の紋様は「図必有意，意必吉祥」といわれ、紋様は必ず意味があり、その意味が吉祥であるほど発展した。民間の吉祥紋様の題材も多く、吉祥紋様の媒体のひとつ年画は人々の生活に欠かせないものとなった。代表する紋様は八宝紋（図 1-13）、金玉滿堂紋、三羊開泰紋（図 1-14）、獅子滾繡球紋などがある。清の時代の工芸は宮廷のものだけではなく、民間においても高い技術に達した。その時期の文様は技術を追求し過ぎて繁縷している傾向がある。しかし文様の重なりは独特で繊細的であり繁多な花紋が生まれた。

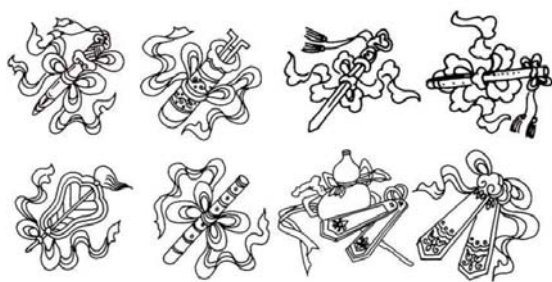


図 1-13 八宝紋



図 1-14 三羊開泰紋

#### 1.4 伝統な吉祥文様の分類

##### 1.4.1 吉祥紋様の内容に分ける

中国の吉祥紋様の形と名前はどんどん変化していったが、人々のより良い生活を願って作られた紋様であることには変わらなかった。中国人は吉祥の観念が強いため、生活における多くの事柄を祈願した。「福、禄、寿、喜、財、吉」は中国の吉祥の観念の核心である。お互いに関係しているが特徴も有している。

### (1) 吉 — 魔よけ類

“吉”は魔よけの意味がある。人々は災厄をよけ、幸福を受けたいという願望である。紋様の名前は“安然”が多い。たとえば、“竹報安然”“四季安然”“頓時安然”“安然如意”など。

花瓶、リンゴ、竹などイメージして紋様が作られた。花瓶の瓶とリンゴは平安の平と同音である。“竹報安然”(図 1-15)は爆竹のことを示す。旧暦の元旦で中国人は爆竹をする習慣があり、新しい一年を迎えて、魔除けをするという意味である。それ以外には、「五毒避邪」(図 1-16)、「鎮宅獅虎」、「鍾馗打鬼」などがある。



図 1-15 竹報安然



図 1-16 五毒避邪

### (2) 財—金銭を招く類

“財”はお金を招く意味があり、お金を祈る意味もある。財を代表する文様は白蓮、海棠、牡丹、蔓草などの花紋がある。白蓮と海棠、牡丹の組合せは“玉堂富貴”と呼ぶ。白蓮の中国語は玉蘭で、文字の玉を取り、海棠の棠と堂は同音で堂を取った。そして牡丹には華やかで栄華な意味がある。“玉堂富貴”は栄華の象徴である。子供が鯉を抱いてる文様もあって「年年有余」(図 1-17)と呼ぶ、余と魚は同音で毎年の良いものが余るほど多くの意味である。



図 1-17 年年有余



図 1-18 五福捧寿

### (3) 福 — 福を祈る類

“福”は人々が安定な生活への憧れ。中国では五福の概念もある。「尚書・洪範」の中において“五福”についてこう述べた「一曰寿、二曰福、三曰康寧、四曰攸好德、五曰考終命。」福を祈る類の文様の中、一番代表するのは蝙蝠である。中国語で蝙蝠の蝠と福は同音、様々な文様は蝙蝠のイメージを使った。二つの蝙蝠は向い合わせが最も多い文様である、それ以外は蝙蝠と雲の組合せと蝙蝠と銅線の組合せと五匹の蝙蝠と桃の組み合わせがある。雲と運は同音で蝙蝠と雲は福運の意味である。五匹の蝙蝠を輪になって真ん中に桃がある文様は「五福捧寿」(図 1-18)と呼ぶ。中国では五福の概念もある。「尚書・洪範」の中で“五福”についてこう述べた「一曰寿、二曰福、三曰康寧、四曰攸好德、五曰考終命。」意味は一つ長生き、二つ豊かな生活、三つは健康で安泰、四つ道德心、五つは有終である。五匹の蝙蝠は五福を代表し、桃は寿桃とも言うのため、「五福捧寿」はたくさんの場面に使われる。

### (4) 禄 — 立身出世類

“禄”は官職に就くことである。“禄”に関する文様は昔の官僚の服などによく見られる。

たとえば、「高官厚禄」(図 1-19)と言う文様は官帽子と官服を身にして、後ろには鹿の姿がある。高い帽子は地位の高さを表現する。後鹿と厚禄は同音で、給料が高い意味である。それ以外は、たくさんの鹿で組み合わせた百鹿図も同じ意味である。鶏頭と鶏の組合せ文様「官上加官」は鶏頭と鶏の冠と官は同音で進捗の意味である。そのような文様は数多くあり、その全ては出世への願いと祝福を表現している。鹿をモチーフした文様の中「三星高照」(図 1-20)と言う文様がある。三星とは福星、禄星、寿星である。飛んでいる蝙蝠と鹿は福と禄を代表して、頭が大きい老人は神仙の寿星である。「三星高照」は幸

福と富裕と長生の典型である。



図 1-19 高官厚禄



図 1-20 三星高照

#### (5) 寿 — 長いき類

寿の文様は人々が長生きすることへの願いである。五福の中で寿が一番である。“寿”は命の表徴で、昔の人は“寿”への執念が強いから寿に関する文様はたくさんある。例えば、「麻姑献寿」、「松鶴長春」、「福星高照」、「春景長寿」、「齐眉祝寿」、「亀鶴延年」(図 1-22)などがある。伝説で亀と鶴は千歳まで生きるとされ、亀と鶴は長寿の代表となった。松は石においても生育するため、長寿の代表とも言える。(図 1-21) 神話の物語で神仙の王母の桃の木は千年に一回だけ実を結ぶ。その桃を食べると、不老不死になる。桃も長寿の代表である。そして、“寿星”(図 1-23)は長寿を代表する神仙で、長くて大きな頭で耳も大きい。長い白い髭をして桃や杖を持ち鶴に乗って空に飛んでいるイメージがある。



図 1-21 松文様



図 1-22 亀鶴延年



図 1-23 寿星

#### 6) 喜 — 人情婚姻類

喜は喜ぶの意味も持っているが、古代で恋愛や婚姻や繁衍などの意味も多いである。喜は二つの書き方があって、“禧”と“囍”がある。“禧”は春節などの祝祭日に使われることが多い。“囍”は二つの喜で双喜とも呼ばれ、婚姻に関する場合が多い。結婚する二

人への嬉しい気持ちと祝福である。喜に関する文様は「歓天喜地」、「喜在眼前」、「報喜図」、「喜上眉梢」、「双喜同心」などがある。「歓天喜地」(図 1-24)でアナグマは上を向いて、カササギが下を向き、お互いに見つめ合う文様である。アナグマの中国語は獾なので、歓と同音、カササギの中国語は喜鵲、喜の字を使い、「歓天喜地」を構成した。「喜上眉梢」(図 1-25)はカササギが梅の枝先に立っている文様である。梅と眉は同音字でこの文様は嬉しい気持ちを抑えず顔に出ているという意味である。「双喜同心」(図 1-26)はハートの中囍の字が入っていて愛し合う鴛鴦がしたにいる文様である。夫婦仲睦まじく共に白髪の生えるまで人生を送る意味がある。



図 1-24 歓天喜地



図 1-25 喜上眉梢



図 1-26 双喜同心

#### 1.4.2 吉祥紋様の媒体に分ける

中国では吉祥文様が多く、歴史、文化、風俗習慣、地理条件などの違いで文様に附属する媒体が非常に多い。材料や芸術の手法も変わって、吉祥文様に様々な変化が出現した。吉祥文様に附属する媒体はおおよそ瓦当紋、捺染紋、石刻紋、磁器紋、青銅器紋、漆器紋、彩陶器紋に分けられる。

|      |  |
|------|--|
| 瓦当紋  | 瓦当四神紋、秦漢空心砖紋、幾何紋、人物楼阁紋、漢砖車騎紋。          |
| 捺染紋  | 西汉茱萸云紋、联珠紋锦、孔雀鴛鴦紋、瑞鹿团花紋、狩獵紋、落花流水紋、龍鳳紋。 |
| 石刻紋  | 卷花紋、蓮花紋、武氏祠樹紋、鳥獸紋、多種連續花紋。              |
| 磁器紋  | 青瓷紋、花蝶圖紋、宋磁折枝と纏枝、磁州窯牡丹花紋、多種適合型花紋動物紋。   |
| 青銅器紋 | 鳥紋、龍鳳紋、饕餮紋。                            |
| 漆器紋  | 雲龍紋、雲獸紋、對鳥紋、書格錦紋、組合花卉植物紋。              |
| 彩陶器紋 | 人面紋、魚紋、舞蹈紋、渦卷紋、輪紋、波折紋。                 |

## 第二章 吉祥文様の構成と表現手法

### 2.1 伝統的な吉祥文様の構成

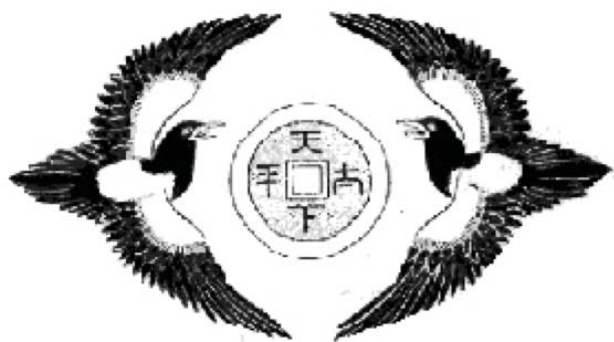
中国の吉祥文様が今まで使われてきた理由は、人々の願いを込める目的だけではない、そこには構成的な形式美がある。伝統的な吉祥文様は構図のバランスがよく、一体感が強い。対称と均衡の審美法則が多い。対称は二つの図形が、点・線・面などについて互いに向き合う位置関係にあることである。点对称・線対称・面对称がある。対称図は安定感を感じ、典雅や荘重なイメージである。均衡の構図は躍動感があり、変化していて生き生きしているイメージである。伝統文様はそのような文様が多く、他の図様と区別ができています。道教や中医学の中の太極図（2-1 図）は天地と陰陽のイメージで、善と悪、昼と夜、積極と消極の意味も含まれる。また「喜在眼前」（2-2 図）という文様は対称な構図を使った。二匹のカササギは向き合って、銅銭は真ん中にある。嬉しいことはすぐ前にあるという意味である。ハーモニーがよく、安定的な美観である。

伝統的な吉祥文様では条理と重複が主な構成である。規律性でリズム感が大切である。文様の中で様々な葉紋、綺麗な鳳鳥紋、魚紋など、形が多いが規律があり、線がまとまり、様々なリズム感を出している。

リズムと韻律は音楽の用語だが、文様の構図では大事なことである。建築、絵画、ダンスも全部リズム感が必要である。そのリズム感も自然の万物の成長と運動規則から出てきた。動物の心臓の脈動、山脈の連綿、海の潮の流れなどリズムが溢れている。リズムでは運動の変化が規律的交代して動く。韻律は運動の変化の高さによって美しく協和な動きをする。文様でのリズム感とは造形、色彩、重要と副次、疎密などに表現されている。文様の韻律はこれらの変化を統一して、バランスよく調和することである。



2-1 図 太極図



2-2 図 喜在眼前

### 2.2 吉祥文様の表現手法

伝統的な吉祥文様は装飾用に使われて、人々は主観的に吉祥というテーマに寄せられた。文様の発展に伴って様々な手法が現れた。これらの手法は人々の考え方によって違うが、

徐々に大衆に認可された。

#### 2.2.1 象徴法

象徴は自分の心理活動と精神世界を表す媒体であり芸術でよく使われる手法である。象徴はある具体的なものを使って、そのものの外見や特徴から表現したい抽象的な概念や感情を表現することである。象徴性は物に特定の意味を持ち、象徴な手法を使った文様は独特の魅力がある。たとえば、蓮は純潔を象徴し、鴛鴦は愛情の象徴で、牡丹は栄華の象徴である。

伝統文様の中において人々は、幸福を祈り長寿と子孫の繁栄を祈願した。それは人間の本能であり芸術という姿で、中国国民の生活の中に浸透している。吉祥文様の象徴性は世間に広く存在し、人々に受け入れられ、長く伝承された。

#### 2.2.2 寓意法

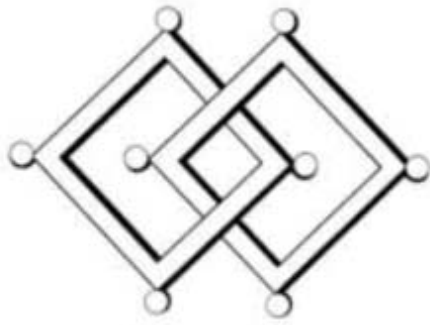
寓意とはある自然のものを借りて、人の理想と願いを表すことである。先に観念があつて、物事を探し、そして意味を与えることが寓意法の特徴である。吉祥文様は何千年間の中で発展し、お守りの役目も果たした。安全を願い、龍や鳳や麒麟などの瑞獣を作られた。神力を与えて人々を守る。幸福を願うことで、福星と禄星、寿星の三神が生まれた。人々は追求するものを図案化し、それらが観念的なシンボルとなって人々の生活に影響した。

#### 2.2.3 語呂合わせ

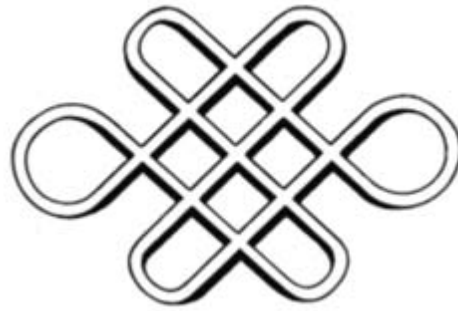
吉祥の意味がある言葉を連想して、それと同音する物や事の言葉を探す手法である。語呂合わせの手法は面白さもある。蝙蝠と福は同音で、蝙蝠は吉祥なイメージが付いていた。鹿と六は同音で、鶴と合は同音で、鹿と鶴の組み合わせで“六合同春”の文様が生まれた。柿と事は同音で、“事事如意”という文様は柿2つと如意の組み合わせである。分かりやすく覚え安い。

#### 2.2.4 表号法

表号とは、ある特定の文様をシンボルにする。例えば、「方勝」(2-3 図)や「盤長」(2-4 図)はシンボルとしての文様である。「方勝」は2つの菱型を交差する文様で、勝は昔の人が頭に飾る飾り物で勝利の意味もある。方勝は心を合わせて勝利を取る意味がある。「盤長」は仏教から伝来したが吉祥文様では俗世のものである。盤長紋は変化しやすいので、盤長万代、盤長四合、盤長百吉、盤長梅花などが派生した。「方勝」や「盤長」は人に愛される吉祥文様として生活のいろんな場面に使われている。



2-3 図 方勝



2-4 図 盤長

#### 2.2.5 文字

文字は昔から装飾的作用がある。書道なども書き方が変わればイメージも全然違う。例えば、寿の字は既に特殊な字体になっている。長寿（2-5 図）、円寿（2-6 図）、団寿などがある。生活の中でよく見かける文様になっている漢字に囍（2-7 図）がある。文様として装飾的作用があり、文字としても意味を伝えている。対称している構図も中国人の審美に合っている。伝統文様の中の漢字文様は文字と意味の結合した運用で想像力と創造力があり、面白い文様である。



2-5 図 長寿



2-6 図 円寿



2-7 図 囍

### 第三章 吉祥文様はデザインでの使用

#### 3.1 吉祥文様の昔からの運用

中国の吉祥文様は中国の伝統である吉祥観念から生まれた。伝統芸術の一種として、中国人の価値観や倫理観念を表現していた。また人々の生活の色々な方面に使われていた。例えば一番よく見るのは双喜の吉祥文様と逆さまになる福など。吉祥文様は早期の青銅器などの装飾文様として使われた。唐宋の時代から、切り紙、看板、家具、服などに使われた。以外にも風呂敷や炭箱など、パッケージに近いものにおいても使われた。

#### 3.2 吉祥文様の色彩運用

##### 3.2.1 中国の伝統色彩の表現特徴

中国の吉祥色と言えば赤である。色は客観的な存在であるが、歴史の文化により色彩に違う意味を与えられた。中国の伝統色彩に独立して成熟している体系がある。中国において色彩は、長い時間の中で、統一した色への審美意識を生み出した。この審美意識は中国の伝統文化から現代の文化までも影響し続けている。さらに色は象徴の意味もある。

1つは色彩の自然のままの特徴である。道家思想の中では装飾の美を否定し、自然の美を求めた。「無色而五色成焉」道家は黒を好んだ。黒は全ての色において上位とされ、道家の建築や服装は黒が多い。道家思想の黒へ追求姿勢は、中国絵の色彩美学から影響されていた。

2つは色彩の中和の特徴。儒家思想は仁義感で色の中和の美を追求した。赤、黄色、青、白、黒は正色と呼ばれ、色には上下尊卑や階層の意味を与えた。違う色は違う階層を代表していた。孔子が「悪紫之奪朱」と言いながら怒っていた。意味は紫が赤と違って、正色の色ではなく中和の特徴が足りない。紫はあまりに眩しく艶めい色のため使用するわけではいけない。儒家思想においては過度な飾りを反対していた。色彩にも儒家思想の中心である仁と善を主張した。

3つは色彩の象徴性の特徴。生活の中で、人々は色彩の認知や感覚を純粋な色という概念だけではなく、色が象徴する意味も大事とした。もちろん、象徴する内容は時代、地域、民族文化により差異がある。伝統的な観念で、赤の象徴は目出度い、吉祥、幸福など。赤は情熱、興奮などの気持ちで、太陽や命を連想する。黄色は天と地の象徴、古代で皇帝しか使えない色で、地位の象徴である。白は無を象徴し、純粋や典麗を表した。伝統な五色の中、黒の運用は最も多く、水墨が一番使われている。水墨はあっさりしていて、グラデーションもある。古代は「墨分五色」や「不施丹青、光彩照人」などの言い方があり、墨の変化を運用して、形を整える。

現代においても水墨を運用するデザインは多い。例えば、中国の通信会社「中国联通」のG3のロゴがある。(図3-1)簡単な水墨のタッチでGを表現し、3は赤い印鑑を表現した。

### 3.2.2 吉祥色彩の運用

色彩はグラフィックデザインにおいても重要は働きを持つ。優れた作品には色合いの調節が重要である。中国の伝統文化の中で色は特に重視されている。中国の古代の色においては赤、黄色、白黒は階層化された。支配者を表す赤と黄色を使用して勢いや威厳を表現し、視覚的にもインパクトを与えた。庶民は黒白灰色などしか使えないので、普通で平凡な表現となった。そして地域により、伝統色彩も変わっていった。漢族の文化の中、赤と黄色と緑が好かれ、派手な色彩が好まれた。白黒は不幸を意味したため忌諱された。漢族と反するチベット族では白は高貴な象徴であり紫とオレンジ、黒も好かれている。人々

には色彩に対する感覚の違いがあり、デザインにおいて文化や背景を理解することはのは非常に重要である。伝統の色彩の特徴と内容を研究し、色の歴史や伝承を理解した上で、現代において民族性を持つデザインが作れるのである。



3-1 図 中国联通のG3のロゴ

### 3.3 吉祥文様は現代のパッケージデザインの使用実例

パッケージデザインでの文様の運用は昔から多い。古代の風呂敷から現代のお酒やお茶高級商品など使われている。

たとえば玉酒というお酒の商品のパッケージは、漢代の四神の一つ龍紋を使用した。お酒の容器も龍紋の形で作られている。龍紋は古代の皇帝の象徴である。無上の権利と財産という意味を持っている。龍紋と書法の文字を使って貴重感を表現している。



3-2 図 玉酒



3-3 図 中国联通パッケージ

中国の通信会社“中国联通”は、ロゴデザインや様々なパッケージデザインに方胜盤長文様を使用している。方胜盤長文様は盤長結から生れた中国の伝統模様の一つである。盤長結とは伝統的な手織り物であり、織る作業は重複で続ける特徴がある。物事は常に順調で、良いことは続くという意味である。

巻草紋もパッケージデザインに使われたことが多い。古代の農耕社会では人々が五風十雨を願っていた。巻いている花草の意味で、満作を象徴する。枝と葉っぱが繋がっている文様には生命力を感じる。剣南春白酒という商品のパッケージは青磁の青色が使われ、巻草紋が加えられた。青と白の色合いは典雅なイメージがあり、巻草紋は伝統を感じさせる。



3-4 図 巻草紋



3-5 図 剣南春白酒

一方、日本では伝統的な文化の伝承が大切している。伝統的な文様を使ってパッケージデザインでの運用も多い。例えば、スーチェさんという焼き菓子のパッケージデザインがある。様々な紋様を使用されていてコレクションしたくなる魅力的なお菓子箱である。贈答品、内祝いや結婚式の引き菓子、そして自分への贈り物にも、人が人を感じる気持ち、縁をつなぐお菓子になればと作られているから、箱を見て、触れた瞬間から、心躍るのだろう。



3-6 図 スーチェさん

明治ザ・チョコレートはクラフト紙風の茶色い紙箱に、カカオの実を大きく描いたシンプルでデザインのパッケージが特徴の板チョコである。一般的なチョコレートのパッケージは、説明が盛りだくさんでおいしそうな写真を大きく使ったものが多いが『間』を持たせたデザインにしている。独自の世界観を出せるデザインはカカオの実をモチーフにしている。七宝の円形は「円満」を表すことから、縁起の良い文様である。



3-7 図 明治ザ・チョコレート

『東京こはく』は、日本の伝統的な和菓子「琥珀糖」と、江戸時代から伝わる日本の遊びである。清少納言知恵の板を融合させた美しく楽しいお菓子である。清少納言知恵の板とは、7つの図形で構成される。日本で生まれたシルエットパズルである。パッケージは日本の伝統的な文様の七宝、市松模様、網代文様、青海波、麻の葉など使われている。



3-8 図 東京こはく

### 3.4 吉祥文様の使い方

#### 3.4.1 吉祥文様を運用する意味

中国の伝統吉祥文様には独特の造形があり、文化が溢れる芸術である。中国人の吉を求める考え方で、吉祥文様は生活の中で様々なところに浸透している。デザインも吉祥文化を重視したデザインも多い。吉祥文様を使ってデザインをするとき、伝統な文化を吸収するだけでなく、オリジナリティも大切にしていかなければならない。新たな文様を創造し、時代遅れないように工夫する。現代のデザインも国際交流の手段のひとつとし

て輝いている。パッケージデザインやファッションデザイン、広告デザインにおいても、吉祥文様を使用することで、中国の文化を世界に広げることができる。パッケージデザインで吉祥文様を応用すれば、民族の文化を感じることができ、良い願いを込めることも可能である。吉祥文様は縁起がよく「幸せのしるし」として用いられるお目出度い文様で、伝統文様の意味を知ることは、古から受け継がれてきた中国文化の奥深さに触れることにも繋がる。若い世代の人がよく購入する商品のパッケージに吉祥文様を運用することで、若い世代にもっと伝統な文化を理解させ、興味を持たせることができる。

#### 3.4.2 若者向けの吉祥文様の使い方

吉祥文様を使うとき、バランスを取らなければならない。一般的には伝統的な文様と現代デザインを融合してデザインを制作する。しかし中国の吉祥文様を使うパッケージデザインには伝統的なイメージが強い傾向があり、お酒やお茶など高級感がある商品には相応しいが、若者向けの商品にあまり適用されない。一方、日本のデザインでは現代のデザインを発展すると同時に伝統的なスタイルを保持した。このため2つのスタイルを組み合わせない。ターゲットにより、西洋の現代風かあるいは、伝統的な民族性があるスタイルに変化する。ターゲットを細かく分別することで、市場を分かれることが可能にして、良い結果が出ている。若者に向けたパッケージデザインは伝統的すぎるスタイルは受けにくい傾向がある。日本の伝統的な文様を使うパッケージデザインは若者に受け入れやすいために、明度が高い色や改良した可愛い形で、いわゆる日本ポップなスタイルを演出している。日本ポップとは時代に適合した様式であり、前衛的で可愛らしさと色鮮やかさ、遊び心があるスタイルである。こういったパッケージデザインは若者の目を引いて、購入意欲を高めている。

### 第四章 吉祥文様のリデザインとパッケージデザインの制作

#### 4.1 チョコレートのパッケージデザイン

チョコレートは洋菓子の一種でカカオ豆を炒めって粉にし、砂糖、バター、牛乳などを加え、練り固めたものである。若い人たちが好きなお菓子でバレンタインの日はプレゼントとして使われている。チョコレートを消費するターゲットから現代の中国でのチョコレートパッケージを分析して、特徴があるパッケージデザインを考えた。

中国のチョコレート市場は外国企業が多く種類も豊富である。最初のチョコレートは飲み物であったが、現在はチョコレートの成分により様々な種類がある。ブラックチョコ、牛乳チョコなど。チョコレートを食べる人はお年寄りから子どもまでだが、特別な意味をお菓子としての消費は若者である。目的として次が挙げられる (1) 若者が愛情表現とし

てプレゼントを贈り合う。(2) 結婚式でのお菓子とプレゼント。(3) 子供が好きなキャラクターなどをデザインした玩具菓子。(4) お土産として的高级菓子。

今回のデザインのターゲットは二十代前後の若者である。友人や家族へのプレゼント、あるいは自分自身へのご褒美的商品として購入する目的がある。

現在の中国市場で販売するチョコレートのパッケージデザインを調べたところ、ヨーロッパなどの西洋的スタイルが多かった。元々西洋から来たものでもあるが、審美の習慣が固定されているために、単一感が感じられる。色合いはチョコレートに近い茶色や黒、あるいはこども向けの可愛いのパッケージがほとんどである。現在の中国市場で販売する伝統な文化を強調するチョコレートの商品パッケージはあまりなかったことをわかった。若者がよく購入する商品のため、伝統な文化は若者にもっと接触する場所の一つである。一方、日本のチョコレートパッケージは西洋とは違って自分の民族特徴が出しているのは多い、その同時に若者にも好まれる商品のパッケージである。それは現在の中国のパッケージデザインが勉強すべきものである。



4-1 図 中国のスーパーにあるチョコレートパッケージ

#### 4.2 吉祥文様の決定とリデザイン

「福、禄、寿、喜、財、吉」は中国の吉祥観念の核心である。この六個のテーマに選択してデザイン制作を展開した。

福は幸福を祈る意味とされ、人々の安定な生活への憧れを表す。代表する文様は蝙蝠、雲などがある。福は表す意味が広いので、ほかの文様と組み合わせる場合も多い。本研究で選んだのは蝙蝠と如意の組み合わせである。中国語の中で蝙蝠の蝠と福は同音。如意は僧が読経や説法の際などに手に持つ道具である。また、物事が自分の思うままになることも意味する。蝙蝠と如意のイメージを合わせで、福の文様をデザインした。蝙蝠と如意が共通する渦な形で上下左右対称のデザインをした。



4-2 図 蝙蝠文様



4-3 図 如意



4-4 図 デザイン福

禄は官職に就くことを意味する。鹿と禄は同音であり古代の人は地位を求め、鹿紋を使用した。特にハナジカは官服など様々な所に使われた。また、万字紋は仏教から伝来した。シャカムニの胸にある文様である。永遠的な意味を持ち世の中の吉祥を象徴している。鹿と万字の組み合わせは永遠の地位の意味である。鹿はハナジカをイメージして、外側の丸い円は瓦当のイメージである。鹿文様は遠い昔から吉祥文様として使われた。そして、万字紋と繋がって、立派な地位を得ることを象徴する。



4-5 図 万字紋



4-6 図 鹿紋



4-7 図 デザイン禄

寿の文様は人々が長生きすることへの願いを表わした。五福の中で寿が一番重要とされている。纏枝蓮紋は古代から長寿の象徴として青磁器によく見かける文様である。枝と蓮の花びらが繋がって、生命力を感じさせる文様である。このデザインは元々の纏枝を簡単化して、蓮花の周りの花の形に造形した。蓮の花びらも対称な位置にまとまった一個の文様にデザインした。



4-8 図 纏枝蓮紋



4-9 図 デザイン寿

吉は魔よけの意味があり、人々は災厄をよけることで、幸福を受けたいという願望を表している。吉の文様の中で魔よけの作用があるアマリリスとモクセイの花紋を選んだ。アマリリスと木犀は中国の家庭で栽培され、魔よけの作用があるとされる。アマリリスと木犀は特別な香りがして、強い匂いがする。それは鬼や化け物を怖らせる匂いという話がある。このデザインはアマリリスとモクセイのイメージをして組み合わせて作った模様である。



4-10 図 モクセイ紋 4-11 図 アマリリス 4-12 図 デザイン吉

喜は喜びの意味を有しているが、古代において恋愛や婚姻などの意味を表した。喜は二つの描き方があり、“禧”と“囍”で表現する。“禧”は春節などの祝祭日に使われることが多い。“囍”は二つの喜で双喜とも呼ばれ、婚姻に関する場合が多い。また「喜上眉梢」という模様があり、嬉しいことすぐが目の前にあるという意味である。眉と梅は同音でこのデザインは囍という文字の文様と梅の文様を選んだ。変形した囍の字の周りに梅がいっぱい咲いている。囍の字の周りも花びらの形でデザインをした。楽しくめでたいイメージで制作した。



4-13 図 「喜上眉梢」 4-14 図 デザイン囍

財はお金を招く意味があり、富を祈る意味もある。古代通貨の銅銭は財産の象徴であり、銅銭紋も模様として広い範囲で使われた。日本にも似たような模様があり、七宝という。このデザインは銅銭紋の間に4分の1を重ねて、銅銭紋の中に小さめの円を描いた。従来の銅銭紋と違って現代的な感覚を表現した。



4-15 図 銅銭紋

4-16 図 デザイン財

本研究でのデザイン制作は若者向けのパッケージデザインのため、古典的な色を避け、色合いは鮮やかな明度が高い色を使用した。チョコレートの色も使わず、若者が目を引きやすいようにデザインした。そして、本来の古い文様をリデザインして、複雑な模様を単純化した上で模様の意味が変化しないように工夫したデザインである。日本のパッケージデザインに使われているポップな感じの文様はシンプルで、重複する造形が多い。中国での従来のパッケージデザインで使われている文様は単独な模様が多い。一個単独の模様では、単純に重複する造形は難しい。選んだ文様をリデザインし、シンプルな文様とした。対称、重複、反転、重ねなど様々な手法で一個の文様ではなく一面の文様とした。各文様の制作手法を以下のように図としてまとめた。

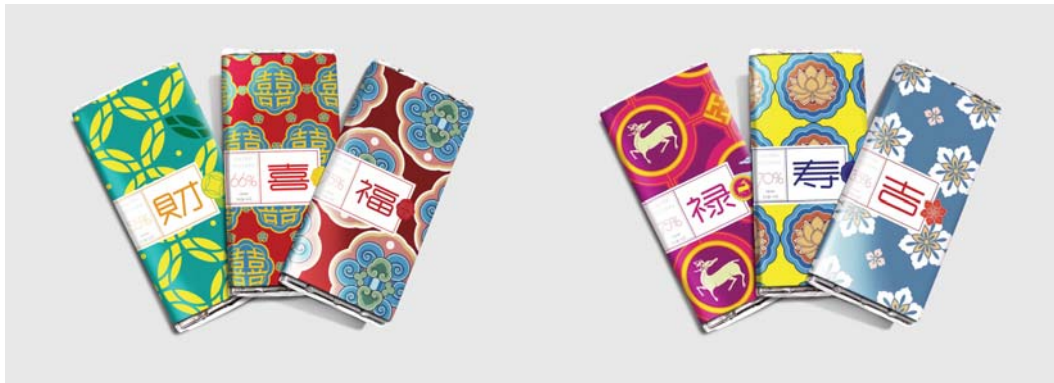
|      | 蝙蝠と如意       | 蓮         | アマリリスとモクセイ        | 銅銭             | 鹿と万字                 | 双喜と梅              |
|------|-------------|-----------|-------------------|----------------|----------------------|-------------------|
| 文様   |             |           |                   |                |                      |                   |
| 構図   |             |           |                   |                |                      |                   |
| 構図方法 | 十六進法列、対称、重複 | 枠線列、対称、重複 | 組み合わせ、対称、重複、十六進法列 | 対称、重複、重ね、十六進法列 | 対称、重複、反転、組み合わせ、十六進法列 | 対称、重複、組み合わせ、十六進法列 |
| 効果   |             |           |                   |                |                      |                   |

#### 4-17 図 文様の構成

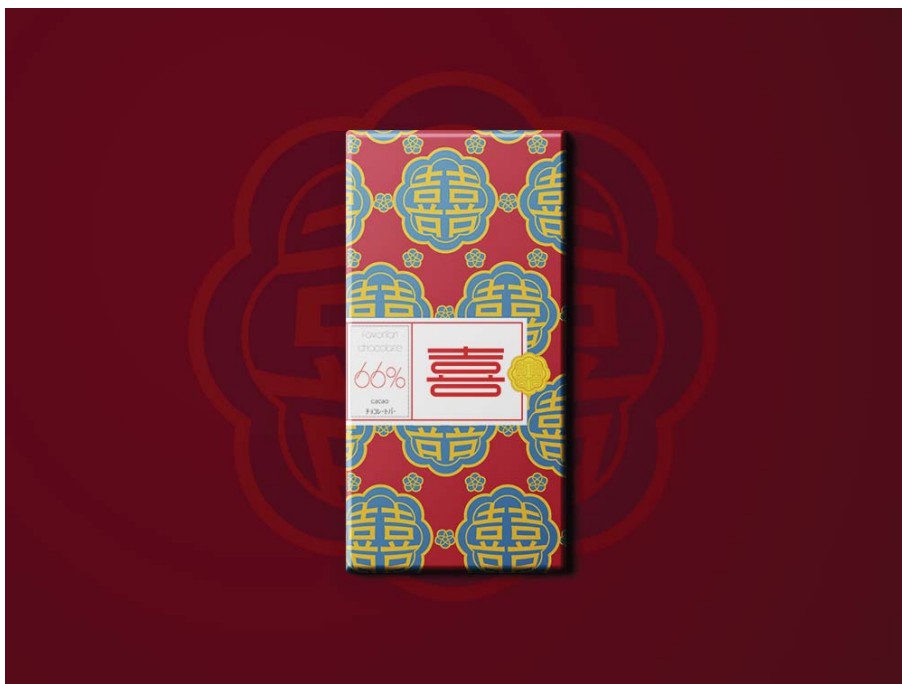
##### 4.3 完成したデザイン

これらのデザインは伝統な吉祥文様をリデザインして、チョコレートのパッケージデザインとして制作した。若者向けのために対象とする商品はチョコレートお菓子にした。これまで伝統な文様を使うパッケージの商品は、高級なお酒やお茶が多かった。若者をも伝統な文化にもっと触れ合えるために、若者が簡単に手に入れて、日常的に購入できる商品にした。チョコレートは6つの種類とした。ココアの量によって分けた。内容は目出度い吉祥文様を表した六個の祝福がある。この商品の贈り合いは家族や友人へ祝福にもなり、自分が食べても楽しむことができる。お守りのイメージを持たせ、内容は「福、禄、寿、喜、財、吉」という6つの中国の吉祥観念に分けた。パッケージの色合いは鮮やかな赤、黄色、水色、紫、緑、茜色にした。明度が高い色を使って、今までのチョコレートデザインにはあまり無かったポップな色にしてみた。

デザイン制作で使用したソフトはAdobe Illustrator と Adobe Photoshop である。Illustrator で主に模様デザインやパッケージのラベルなどのデザインをした。Photoshop では完成した商品の効果図の制作で使用した。









4-18 效果图

## おわりに

本研究で中国の伝統的な吉祥文様を現代の若者に向けたリデザイン制作をおこなった。吉祥文様を扱うためには、中国人の吉祥観念や文様の特徴などを充分理解しなければならない。本研究は吉祥文様の歴史の発展から、文様の象徴性などの吉祥文様に関する造形変換を研究し、吉祥文様を現代デザインでの使用した状況について分析した。吉祥文様を今の若い世代にも受け入れやすくするために、日本のポップなデザインスタイルを研究した。若者が手に入れやすい商品を考案して、商品パッケージデザインの制作も実施した。

中国の伝統的な吉祥文様は文明の発展の歴史の中、数多くの変遷を見せてきた。吉祥文様は独特の表現によって人々の生活へ情熱、幸せを願う思いを表現した。吉祥文様の豊富な形式、内包性や構図は、現代のデザインに豊かなアイデアを与えつづけた。しかしデザインは常に変化し続け、更新する芸術である。吉祥文様をリデザインし、現代のデザイン手法を持つことに、時代に遅れることはない芸術となるのである。

本研究は二十代後半の若者に向けるチョコレートのパッケージデザインに、吉祥文様の運用することについて研究した。中国と日本の現在市場に販売しているお菓子を調べた。日本の若者にターゲットにしたお菓子の商品はポップなスタイルが多かった。ポップなスタイルは前衛的でお洒落、可愛らしさがある。鮮やかな色合いが若者に目を引きやすいため、若者に好かれている。一方、現在の中国市場で販売する伝統文様を使った商品のパッケージデザインにはポップなスタイルを足りたいと考えている。中国伝統な文様には新たなポップなスタイルによって活力を与えることはできる。そして、本研究は日本のポップなデザインを参考となり、チョコレートのパッケージを制作した。

## 参考文献

1. 田自秉「中国纹样史」高等教育出版社 2003
2. 郭廉夫、丁涛、诸葛铠「中国纹样辞典」天津教育出版社 1998
3. 李娜「中国传统纹样对现代设计的影响」2011
4. 武丽芳「中国传统纹样在潮牌服饰设计上的运用」2018
5. 聂亚丽「中国传统纹样在现代中式室内设计中的传承与发展」2018
6. 杨晓燕, 王美玲, 杜越「汉规矩镜纹样在女性化妆品包装设计中的应用」2018
7. 冯静雯「浅析巧克力包装设计中的色彩表现形式」2013
8. 何洁 中国传统图形与现代视觉设计 山东画报出版社 2005
9. 丁松丽 论现代设计中民间传统艺术的应用 2007
10. 秦岁月 与时俱进的传统图案艺术装饰 1995
11. 钟福民 中国吉祥图案的象征性研究 中国社会科学出版社 2009
12. 王文源 中国吉祥图说 民间吉祥百态图说 中国工人出版社 2008
13. 周星 作为民俗文化遗产的中国传统吉祥图案 艺术探索 2005
14. 陈珍燕「浅谈几种在现代包装设计中常用的中国传统特色纹样」 2017
15. センド ポイント・パブリッシング「中国の伝統文様×デザイン」2017
16. 早坂 優子「日本・中国の文様事典」 2000

## 参考ホームページ

- 1 <http://www.haconiwa-mag.com/magazine/2014/07/mori-michi-ichiba/>
- 2 <https://www.seiwa-p.co.jp/shop/r/r180926/>
- 3 <https://www.meiji.co.jp/sweets/chocolate/the-chocolate/awards/>
- 4 [http://www.isshin-do.co.jp/tokyo\\_kohaku.html](http://www.isshin-do.co.jp/tokyo_kohaku.html)
- 5 <https://takahshi.net/art/design/pop>
- 6 [http://www.360doc.com/content/17/1016/21/35985280\\_695528659.shtml](http://www.360doc.com/content/17/1016/21/35985280_695528659.shtml)
- 7 <https://bbs.artron.net/forum-223-2.html>
- 8 <http://www.wenwuchina.com>
- 9 <http://www.baike.com/wiki/陵阳公样#1>

## 謝辞

本研究の実施にあたり、終始懇切丁寧な御指導ならびに御校閲を賜った佐藤光輝准教授に謹んで感謝の意を表します。それに今回で著者たちが多くの研究を続けるからこそ、この論文が完成できるようになりました。それに美術学科の先生の方々と学生からのご援助にも感謝の意を申し上げます。